

## 近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

出船御定書寫

上



経済学部  
研究系  
5  
240

東大  
Z

5  
240

經濟學部

享保十七年

江戸大坂沖廻米出松古米斗立等成り  
覽書帳

但文政八酉年出米書帳同年在改目録  
末三頁留

所長用場

東京帝國大  
學經濟學部  
研究室之印



一 河代官米休廻極取取の相渡刻双方分高極  
 可計高取の若理不有、成有、取取合運感の得高  
 以後河代官米休廻極取取の相渡刻

一 河代官米休廻極取取の相渡刻双方分高極  
 可計高取の若理不有、成有、取取合運感の得高  
 以後河代官米休廻極取取の相渡刻  
 河代官米休廻極取取の相渡刻双方分高極  
 可計高取の若理不有、成有、取取合運感の得高  
 以後河代官米休廻極取取の相渡刻



之談及之相と道中代史と遠近と系明と河東何子石出船  
尸舟の河代官中致書候一四と云々。後には舟代史  
中甲乙等と旅令示候もの出し。中事。

一 上方船主大坂河代船主等河船道奥不改一紙切送を係  
可指紙のり及在左邊等。相お其船出船と御右送。  
各事加添書船頭等相御の自代破損仕候候様。下り  
一 此船之候之船道奥不改紙の帳面官簿所記等。出候  
才下云紙の系より合取遠等。船主道奥附目録  
船頭二方より。此水是又右目録。加添書大坂河代船  
主河宛不之船頭。下り後之り事。

一 船台江戸大坂河代船主。以是所禁割之云々。後入不尸船之  
船頭。下り船頭之候。上り船之河代地船。船若其  
事。後之り中事。

一 舟廻形。江人大坂。等。船頭。下り。中。以舟。以船。不。舟。今  
以。代。各。一。浦。切。出。下。格。之。帳。以。代。各。舟。之。名。可。書。出  
以。系。各。事。河。横。目。相。見。忘。替。詞。以。舟。古。米。新。米。舟。廻  
下。下。舟。以。舟。代。官。前。替。詞。仕。者。由。古。以。今。其。後。以。代。各  
と。も。書。付。中。舟。舟。之。名。以。舟。出。前。之。替。詞。之。紙。下。志。以。舟  
中。後。舟。廻。之。り。舟。以。新。米。舟。之。人。是。貨。浪。之。以。代。各。より  
相。拂。下。格。之。古。米。舟。之。人。是。貨。浪。之。下。下。舟。以。代。各。



極通者之註在後事

一 舟米運出有某日之內舟迴相極遠不別別城兼  
之通送帳之相記船政在後之船之舟舟舟舟舟  
極船政舟米運出以後日和送以船船船船船  
米之船政舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

一 古來新米其於以船不舟迴之極者者其極目度  
上方船之船之舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
關係下之極之國之極之極之極之極之極之極  
極之船政舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

關係極之見

一 一百石之内

舟中宛

一 一百石之内三石拾石送之

舟中宛

一 三百石拾石之内六石送之

舟中宛

一 六百石之内八石送之

舟中宛

一 八百石之内十石送之

舟中宛

一 千石之内十二石送之

舟中宛

一 江戸大坂舟迴之舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
廻之舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
相極至其上之貫舟相政送帳之舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

如子山月欠米之未明記之乎の首自思て是代迄切  
并廻有し山月欠米之未無し之代迄其用と云  
指交し事

一 遠不及り通舟也此船石の積也一舟着し分一日廻り  
之廻舟舟一政積言の内裁也是も山月欠米と云一平均  
之是有し之を多一平均の舟廻也之も事

圖儀之成舟附札

此ヶ條之紙之記一交代之も裁切も并廻り之積也  
相付の舟舟在積言の多し之裁切之圖儀之指交通  
之是一代官之數有候之後右每儀一集并廻也

P頁云云

一 清代官之船取右對言不及并廻該切一仕由右取言一向  
其會員并廻也一は相極事

一 此船之候也舟送清來之程若積言一有底は其  
舟着言積入若舟是重り之何候會候し上之程一其  
積也之尤積減来言書記此儀之指交事

一 加別浦之候也舟取入川入不無し之米此船之知も船  
人之若者廉より手付之言し之候也之後其  
之是也舟取之舟着積入同日舟取之候也之候也  
但安尾此船之時方手取小松安尾是尾浦之出



舟の地丈疎くして被水子控致す人花素り由尋  
遠金成之松原の松石後追之小松舟の船頭舟  
四六人安宅舟之六人堂組浦の舟之八人松石松石  
余の舟之舟師舟之舟師八人余の舟之舟師舟  
浦舟舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟  
舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟

一 若くは成成出来其日此を在り人思ふ事不足事  
舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟  
舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟  
舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟  
舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟  
舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟

人思ふ事不足事  
一 出船前之忘船之成之舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟  
大坂舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟  
舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟  
舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟  
舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟  
舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟  
舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟  
舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟師舟

地亦古舟船方より通懐。お紀より江戸代官より其日より  
 後より江戸代官より通懐。お紀より江戸代官より其日より  
 一板切手より江戸代官より

一江戸大坂舟廻米船運。江戸代官より後送快。日付より舟廻相極船運  
 江戸代官より日付より

一江戸大坂舟廻米船運。江戸代官より後送快。日付より舟廻相極船運  
 江戸代官より日付より  
 一江戸大坂舟廻米船運。江戸代官より後送快。日付より舟廻相極船運  
 江戸代官より日付より  
 一江戸大坂舟廻米船運。江戸代官より後送快。日付より舟廻相極船運  
 江戸代官より日付より

江戸代官より

一江戸大坂舟廻米船運。江戸代官より後送快。日付より舟廻相極船運  
 江戸代官より日付より  
 一江戸大坂舟廻米船運。江戸代官より後送快。日付より舟廻相極船運  
 江戸代官より日付より  
 一江戸大坂舟廻米船運。江戸代官より後送快。日付より舟廻相極船運  
 江戸代官より日付より

一江戸大坂舟廻米船運。江戸代官より後送快。日付より舟廻相極船運  
 江戸代官より日付より

一江戸大坂舟廻米船運。江戸代官より後送快。日付より舟廻相極船運  
 江戸代官より日付より

東朝之役人言孫子之言相率事

一 新采之分形既去先言作週今年一統而采迨之則采  
言關係為之有之乎自之而一以如事以子在公運貨采之  
步出關係為之有之由之向後而采迨之關係在極了者  
之會以此事

一 上乃舟為岸之而地采令之出岸以如在船之勝在次采  
出如之乎自之假令上之船之地采令之出岸之也少  
之采言及不及而大地采之進言以如之自之取之上之采  
或許之也代之及之後出如之後之採之是地采之  
為故出如之在對之之無帶採之乎自事

一 斗立相與之之采采帳而元之長使之之指裁之出船  
帳之移之內而向之之出帳之極計采古采得合出船  
之之自之部古其而之舟載物之代在方之也知之之  
斗立帳之之過古記之之

何何事佛收納采但儀成

一 何百何拾石

何方亮

誰代官

何百何拾石

誰

何百石

正采

何拾石

負采

但石舟何林欠

- 一 惟合小松院之何名石出船着と可堪々事並りも小松河院所  
 言に有る青溪の道程不同と云云然と云云若院道程書近  
 要細に尋し各以て其用と云云然と云云誰所代書來  
 何程と問何程と何名院何程と何名院と云云院不并  
 一代書切書并出河院用し時分り書出書年
- 一 出船不遠出林廻迫各以て横目より足届り後後院書院海  
 方哉前、有る出船一艘と云云浦出船と云云足届書院  
 以来し事切り云云事
- 一 上り舟舟院と者多代浦と云云是と云云此爲り源状

- 一 合持系の言は其意河用と云云付り付り地并り候と云云  
 舟名院と右より舟と云云代同事、在船書、其不  
 肝黄、舟名と名を為し書出河用と云云付り事
- 一 出船兼古来沙立河用と云云日用と云云、各々賣上物と云云  
 在院上と日用院取と云云人々是親方と云云業、日用と云云、各々  
 別紙帳簿、及び記帳と云云事
- 一 前々言出船院兼河院書、毎月毎々書及書院、河院、河院、  
 一被りも出船と云云、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、  
 河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、  
 河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、
- 一 河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、  
 河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、  
 河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、
- 一 河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、  
 河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、  
 河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、河院、

其高礼之入札何松何通之用此札言在院之亦及而之旨  
以撰自奥書言以此信用仕通亦在序右方和珠伐浪  
该旨亦古苑之亦方之御波言以切字之亦也拾之亦  
之亦也之亦也

一出船相浦大坂之指紙是信之下帳列紙指是言大坂  
御殿成言以亦不之調此揚之言也之江戶也之亦在  
信而仕是信大坂之信之言更亦亦江戶之言也之亦  
之亦調之亦也之同手合之江戶大坂御殿亦之亦  
信而列冊之亦也

一江戶大坂御殿亦船頭之言在後送状之亦亦亦亦亦亦

以善因信之下帳御入用浪一卷以善因信之下帳令銀也  
之亦信言手合一格成信列紙下帳是也之亦也之亦也  
一斗立以言以斗立言以言以言以言以言以言以言以言

覺

何之何年御殿御信

一何子何而石 斗立言 何方苑

右何之浦之當年江戶大坂為御信之亦也之亦也之亦也

斗立言

斗立言

斗立言

斗立言

一斗三采以銀以年以諸水之至案於通

何之何年河收納諸案

一何子何百石

斗三采

何之流

右何之浦之當年江戶大坂為諸案系諸水以有諸水

尸不之師

年号月日

以銀以年以名列下

死而

斗三以年以

一河收納新系之合川下以年以之送諸文於通

覺

何之何年河收納系

一何子何百石

何之流

右何之浦之當年江戶大坂為河收納系諸水以有諸水

尸不之師

年号月日

川下以年以名列下

死而

斗三以年以

右之采由銀以年以諸水之禮文於通

覺

一何子何百石

何之流

右何之浦之當年江戶大坂為河收納系諸水以有諸水



信子手紙

年号月日

出船の事

宛不

川下

一出船の事は、川下へ向て、信子へ宛て、相成り、新米、信子へ、切手、代金、切手、金、馬、車、知、り、多、く、以、て、代、金、返、上、分、金、を、手、名、目、出、船、帳、に、書、記、不、し、一、条、目、を、手、名、目、代、金、預、け、其、通、書、記、し、其、後、信、子、へ、代、金、用、意、申、付、た、り、し、

一、延、保、元、年、上、月、一、日、以、信、子、へ、宛、て、手、紙、を、書、き、

如、手、紙、通

覚

何、の、何、事、師、付、納、但、延、保、元、上、月

一、何、百、石

何、方、石

右、何、方、浦、へ、寄、り、以、て、大、坂、為、師、也、と、申、上、り、信、子、へ、手、紙、を、書、き、

年号月日

出船の事

宛不

信子

一、大、坂、迄、の、事、有、り、何、事、申、上、り、不、疑、信、子、へ、手、紙、を、書、き、

指其來路米以重以之切其水也

一 出船以重以斗之切其水也其後在船中米切月  
所用仁年其係係中之當係其前之指出書其意  
義因之重以重以之事

一 運貨米書記以追加也

一 先年之船頭頭之名謂當地之排下其勝子以水可也  
P付之台P後以係其子細其以重以之運其文書之通  
運貨米以積入之P付之江戶大坂其積入之P後之  
地而之各運貨米積入之石其之積入之多積入之  
船頭勝子以水之積入之石其之積入之多積入之

一 上子再一角大坂言其地河川交其以又分仁其之合其  
P付之台P後以係其子細其以重以之運其文書之通  
其之者其改其也

一 加別安是切其官腰能之口部外浦以船渡其米為一輪米  
其度其之其就官腰能之口部外浦以船渡其米為一輪米  
其子石其長其文幅之其子之枕米又其雜米也  
其可也其為之其度其之其就官腰能之口部外浦以船渡其米為一輪米  
七合其古後指其米右子石其之其就官腰能之口部外浦以船渡其米為一輪米  
其運貨米一角其就官腰能之口部外浦以船渡其米為一輪米  
一 輪米其度其之其就官腰能之口部外浦以船渡其米為一輪米



一 口郡外浦手合大町金丸沼下之末草溪、村中ノ各場  
ノ中、輪木ノ區、爲、管、限、有、リ、此、米、以、船、場、而、出、ス  
了、節、又、爲、安、ト、此、米、了、得、之、管、限、在、後、多、ク、其、出、  
管、限、元、ト、出、了、所、米、之、尤、管、限、相、限、者、ト、想、中  
爲、安、了、米、之、合、之、不、殘、管、限、在、後、若、シ、今、漢、元、爲、米、元  
少、私、米、指、出、場、不、爲、安、了、不、乃、由、此、私、米、以、今、食、成  
了、飯、之、了、少、右、或、之、不、了、分、之、之、爲、安、了、不、乃、  
也、元、而、之、了、了、俄、時、又、了、或、私、販、米、法、了、後、乃、以  
漢、之、志、あり、ホ、者、之、了、了、所、横、目、及、後、人、中、食、成、了、上  
爲、安、了、指、出、場、不、爲、安、了、右、二、不、了、之、爲、安、了、用、之、是

若、今、草、溪、川、瓦、ホ、用、念、仕、吾、若、今、内、早、建、相、廻、了、了、私  
手、右、爲、了、之、代、了、了、了、了、後、了、了、

廿九

此、今、條、ノ、内、草、溪、横、輪、木、之、區、爲、安、了、爲、安、了、之、不、乃、  
之、所、内、元、延、享、之、年、食、成、了、上、右、改、了、米、元、爲、安、了、爲、安、了  
了、  
但、其、後、爲、爲、所、用、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、  
了、  
一 右、也、之、不、乃、爲、安、了、爲、安、了、了、其、年、ノ、浦、之、懸、出、私、米、元、  
指、出、了、

了了了了了

一 古来い成落系の多行の事... 仕廻り系... 後... 古... 相封... 有... 了

一 斗立... 了

了了了了了

一 斗立... 多... 改... 由... 念... 一

一 斗立... 多... 一





記に格と通下儀とを入と意及つ言ふ以上儀を繩之反  
ハ上利と格とを南儀と云ふ或上利と通を言ふ以上儀  
結立り反爲意と云ふ事

一 斗と一時分不引是亦反通儀と云ふ言は通儀と斗と  
千月一仕通二時儀ノ算數意早竟何程ノ欠米ノ算用  
立中七分取らるる若初ノ時儀と格加算用入るも  
相知り今斗分今引引是米中敷何石ノ中初  
除通千上儀各判下紙札と付通言ふ尤多敷  
其日不足はく通右と格言ふ仕通時分右札  
儀今引是米と右極言ふ事

一 格以下儀指し義大坂及江戸津川等引右右邊之儀  
中米と云ふ御米斗言ひ以事以美淨模用不意可  
其儀言ふ意由引言ふ味尤日用方御言意度言  
以米斗紙言ふ後事

一 古米斗言ふ言付分外言ふ者折と調前書別紙言  
通言付各言以模目別言言見言又右外  
之者暫調日より日用賃法相後言合言年  
以言用言節言立不右日用賃法為改通言米  
言言向後暫調仕日言賃法言右後言事  
一 古米初言言右後時分圖後言右外通言右



人を袖多し物を為さむと立寄申す苦み先年ハ  
五種より好く之を以て又物と申す申す申す申す  
之れ出り候事なり

一 出船より刻り而して自船より日角頃迄船人は  
指はくも也出船不慕出船仕成内記言船頭頼其  
上之慕より有りと船頭大坂に在り出船  
仕成由申す候事申す沙汰候仕成今申  
者出船不慕仕成候事其不候人其右候事  
候事候事右申す不候私由仕成用指はくも也  
申す候事候事申す候事候事候事

一 出船より候候候候目下用章分相滞言出船相滞  
申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事  
申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事  
申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事

一 出船より候候候候候候候候候候候候候候候候  
申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事  
申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事  
申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事  
申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事  
申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事  
申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事  
申す候事申す候事申す候事申す候事申す候事

春有秋秋有冬有年代其人所勉出船乃其日一  
下上之各船頭の上を爲す少曲手代其人所勉出船  
者早進若南陽の事及事同也

一安宅浦出船古述一矢之舟一舟年致無之其上少松より  
滑下米滞止又輪不度有致不足溪後指つ加へは  
有し由ら未たく致に余致出船暮より致つ其致海の  
安宅浦に向ひ舟を能少福浦越前三國浦へ宗廻り  
一切之時刻達々宗廻りも下るる宗先亦端舟に宗  
船頭取つ舟手舟手舟手横底の舟又滑下米滞止船後入  
り波をくくし此處に倉込少松より舟年貨少く端

此處出船暮れ其上輪不度有代も下り舟松手は  
相考具つたり少く猶又より拾事

但輪不度有れは舟古記の通三年一浦之邊  
出船等言古述に言へば舟年舟の舟は拾事  
不戸松一戸後道は未たり舟の事

一此船古米斗に以入用浪近年之百目宛相後以各舟  
舟係に舟勘定刻過上浪多し舟下は舟古舟

一斗を以古米近年係積不足は下浪上浪之は舟の舟  
横繩以繩不能く会を入り舟下り舟の舟は係積數を  
比るより係浪多し舟古舟係積一は舟古舟古舟

若松成茂様へ  
一 若松様方代不該に在り候日敷古延り候事の中勘  
限に在り候其刻未だ日敷に在り候事少く候事  
三十日の中勘限に在り候七日迄に在り候事  
有候事

一 所米澤出入り候事に在り候事  
所米澤候事に在り候事  
用は此間候利に在り候事  
所米澤候事に在り候事  
所米澤候事に在り候事

此傳言に相違し上右改り所間見届り由以候事  
一 古米澤候事に在り候事  
一 古米澤候事に在り候事  
一 古米澤候事に在り候事  
一 古米澤候事に在り候事  
一 古米澤候事に在り候事

運賃減小の事不々記す事

一 漢中米運賃減小の事  
其運賃買上代銀少拂不々記す事

一 古米斗立の日廻り運賃川下運賃減小の事  
其運賃買上代銀少拂不々記す事

一 川西沖米川下長舟運賃之儀  
通増水子之儀不々記す事

一 能登郡今河所流の安宅迄沼下舟の形米之水揚迄  
舟の古米運賃減小の儀不々記す事  
古米之水揚迄舟の形米の儀不々記す事

一 因市所流の安宅沼下舟の運賃減小の儀不々記す事  
沼下舟の形米の儀不々記す事  
及所當儀減小の儀不々記す事

一 沖米所流の積入舟一人一日の運賃減小の儀不々記す事  
其運賃買上代銀少拂不々記す事

一 前々古米運賃減小の儀不々記す事  
其運賃買上代銀少拂不々記す事  
及所當儀減小の儀不々記す事

一 前々古米運賃減小の儀不々記す事  
其運賃買上代銀少拂不々記す事  
及所當儀減小の儀不々記す事



五紀事

一 吉久使米川下米舟自代遭旋風舟米濡之可憐也  
米舟幸因右澤米入札米舟之互相拂代浪而吉久  
言上之右澤換浪之振子可憐之可憐事

為師也米船出船浦方自吉久破換任事不  
以吉久之各言古知言下五紀事

一 江沼郡坂切之安宅浦迄

小松町吉久  
安宅出船吉久

一 安宅之吉浦迄

吉久和吉田吉浦迄  
安宅出船吉久

一 吉久之吉松浦迄

宮腰所吉久  
用不小塚吉久

一 吉久之海地浦迄

吉久傳代吉  
能分口吉外浦

但吉傳代吉指合吉言吉言自承破換吉久

一 海地之海園村之吉村領境迄

真款破換吉久  
用款可浦出船吉久

文政七年之破換之海 語不吉改吉言吉不遠之事

但能取之者

一 小舟村頃境へ乙彦浦迄

乙彦浦傳代官あり  
奥野内浦出船あり

一 乙彦へ下台迄

下台町あり  
因不出船あり

但下台町あり 拾合の町あり 出津傳代官

一 下台へ氷見浦迄

下台町あり  
氷見浦出船あり

一 氷見へ東岩瀬浦迄

昔久傳代官あり  
因不出船あり

一 東岩瀬へ奥津迄

奥津町あり  
東岩瀬出船あり

一 奥津へ境浦迄

奥津町あり  
因不出船あり

右浦へ下津廻り舟破後仕刻去り分へ通へりあり

長持加浦より廻り舟法表に在りし事

一 上儀御荷相舟より文化園大名前舟相舟破後一切各  
梅より了りし事

一 江戸大坂舟廻り舟破後刻去り案内次第早進下浦に  
新舟織元澤より舟揚右記の事ありと云ふ後之也

十村多矣以彼村人<sub>之</sub>多<sub>乎</sub>舟<sub>有</sub>津采<sub>亦</sub>舟<sub>種</sub>在<sub>入</sub>札<sub>之</sub>  
 其集<sub>船</sub>限<sub>且</sub>又<sub>上</sub>方<sub>船</sub>之<sub>船</sub>之<sub>紳</sub>代<sub>也</sub>而<sub>亦</sub>亦<sub>當</sub>古<sub>元</sub>  
 之<sub>心</sub>以<sub>彼</sub>之<sub>心</sub>札<sub>之</sub>之<sub>心</sub>古<sub>之</sub>紳<sub>之</sub>津<sub>之</sub>采<sub>代</sub>之<sub>津</sub>古<sub>之</sub>元<sub>之</sub>古<sub>之</sub>元<sub>之</sub>  
 而<sub>代</sub>之<sub>船</sub>限<sub>之</sub>古<sub>之</sub>後<sub>之</sub>浦<sub>之</sub>多<sub>之</sub>能<sub>之</sub>之<sub>分</sub>長<sub>之</sub>古<sub>之</sub>元<sub>之</sub>  
 津<sub>之</sub>采<sub>代</sub>之<sub>津</sub>古<sub>之</sub>元<sub>之</sub>其<sub>亦</sub>古<sub>之</sub>元<sub>之</sub>  
 尸<sub>之</sub>紙<sub>且</sub>又<sub>破</sub>紙<sub>之</sub>在<sub>子</sub>和<sub>裁</sub>之<sub>代</sub>之<sub>細</sub>之<sub>書</sub>之<sub>書</sub>  
 一<sub>之</sub>西<sub>之</sub>來<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>  
 之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>  
 以<sub>亦</sub>不<sub>足</sub>亦<sub>積</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>  
 事<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>

船之紳之代也<sub>之</sub>西<sub>之</sub>來<sub>之</sub>合<sub>之</sub>之<sub>之</sub>配<sub>之</sub>之<sub>之</sub>事<sub>之</sub>

一<sub>之</sub>近年<sub>之</sub>也<sub>之</sub>船<sub>之</sub>上<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>  
 如<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>  
 所<sub>之</sub>來<sub>之</sub>言<sub>之</sub>相<sub>之</sub>後<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>  
 為<sub>之</sub>野<sub>之</sub>用<sub>之</sub>卷<sub>之</sub>如<sub>之</sub>紙<sub>之</sub>仕<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>  
 各<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>  
 與<sub>之</sub>書<sub>之</sub>上<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>  
 卷<sub>之</sub>如<sub>之</sub>紙<sub>之</sub>仕<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>  
 各<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>  
 各<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>之<sub>之</sub>



五代高僧書付之後出而不知所往也  
入津浦亦能少少生以之幾度之云  
後致亦不改津入之有首尾之來  
廉以致生之其其物浦之山生之

他句文之通之近事能同之句  
船頭亦致生之押在之

一 各可致生之其誠古來斗之古  
一 後之其生之其生之其生之其生之  
一 後之其生之其生之其生之其生之

一 河荒之其生之其生之其生之其生之  
一 後之其生之其生之其生之其生之

古來斗之其生之

一 斗之其生之其生之其生之其生之  
一 後之其生之其生之其生之其生之

一 古來斗之其生之其生之其生之其生之

是年春有日月佛来以佛仗银之终撰立人三  
多有之既不裁许存多来向後十日斗之佳也  
為此集五佛之撰立之了了佛事

一斗之刻下依之如之佛来移以依之能之也少  
佛来移以依之能之也少佛来移以依之能之也少  
上依之了了佛事

一斗之休歇多之相之自代只斗依之斗依之也  
以是各不念之能之来此稿之了了佛事

一佛结来之自自代大来大来依之了了佛事

以代官相是之来亮不之依之上候中候下候之了

一依是之了了之自自代之改之平均之来大来依大来

冷依之了了之自自代之了了之了了佛事

一汗指古来之改之了了之了了佛事

去佛如来之了了之了了佛事

了了之了了佛事

了了之了了佛事

了了之了了佛事

了了之了了佛事

了了之了了佛事





一 本吉出船不在後は是怪也船中有人是怪也此方  
 一切手記持てて後後は是事  
 一 舟中下り高しは是怪也此舟中有人是怪也此方  
 一切手記持てて後後は是事  
 一 舟中下り高しは是怪也此舟中有人是怪也此方  
 一切手記持てて後後は是事

一 舟中下り高しは是怪也此舟中有人是怪也此方  
 一切手記持てて後後は是事  
 一 舟中下り高しは是怪也此舟中有人是怪也此方  
 一切手記持てて後後は是事

舟中下り高しは是怪也

一 舟中下り高しは是怪也此舟中有人是怪也此方  
 一切手記持てて後後は是事  
 一 舟中下り高しは是怪也此舟中有人是怪也此方  
 一切手記持てて後後は是事  
 一 舟中下り高しは是怪也此舟中有人是怪也此方  
 一切手記持てて後後は是事

一 休廻美斗之伸火之志兵又小廻二水主不之付摺伺  
 得又付傷入之付後事  
 一 斗之二重儀之古仕也取而之申取而向不之其致  
 之案内之法指示之者中律之事  
 一 伸入用中勤浪之法也之日用之伸之志下封之取  
 申取而之付之取申取而之申取而之申取而之  
 一 恐取而用之申取而之日月人是不用之申取而之  
 為自分申擲申取而之申取而之申取而之申取而之  
 一 各煩之申取而之申取而之申取而之申取而之  
 在之申取而之申取而之申取而之申取而之申取而之

一 為清之申取而之申取而之申取而之申取而之申取而之  
 之申取而之申取而之申取而之申取而之申取而之  
 但所雇亦之内道臭痛不之申取而之申取而之  
 右日假之用申取而之申取而之申取而之申取而之  
 右之通之申取而之申取而之申取而之申取而之申取而之  
 申取而之申取而之申取而之申取而之申取而之申取而之

享保十七年正月  
 所費用場

出取  
 申取而之申取而之申取而之申取而之申取而之申取而之

ヤトル丹

九冊入サト

1

7

